

平成30年度 学校評価報告 京都市立西院中学校

教育目標

校是（最高学校経営理念）

— 志 みつめる —

教育目標

- 礼節を重んじ、自他の存在を尊重し命を大切にする人間の育成
- 自ら課題を見いだし、熟考して解決に向け取り組める人間の育成
- 伝統と文化を大切にすると共に、新たな創造を大切にする人間の育成

年度末の最終評価

自己評価	教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し
	<ul style="list-style-type: none">○ 今年度も引き続き、校是「志 みつめる」のもと、生徒、教職員、地域の教育関係者に啓発し、志を育てる教育を大切に学校運営できたと分析している。全教職員が「校是」や「教育目標」を踏まえた教育を一丸となって進めた。「生徒が将来に夢や目標を持っている」というアンケートへの回答が、前期より後期で肯定的回答がかなり増加している。次年度も、小学校と中学校で教育目標の繋がりもできているので、さらに今年度の目標で推し進めていきたい。○ 教育目標についての教職員の意見や反省をカリキュラムマネジメントの視点から、PDCAサイクルにより意見を集約して、来年度に生かしていきたいと思う。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策
	<ul style="list-style-type: none">○ 大変よく小学校と中学校が連携して、西院の子どもたちを9年間連続して育ててくれていることに感謝している。○ 小学校の「夢」、中学校の「志」を大切にした教育、一貫した教育を、学校だより等を通じて、地域の人たちの理解にも繋がっている。地域の学校教育に対する好意的・協力的な姿勢に繋がっていると感じる。○ 今後も、西院のまちの学校として、ともに西院の子どもたちを健やかにそして逞しく育てていって欲しい。

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	平成30年10月18日（木）	学校運営協議会
最終評価	平成31年 2月18日（月）	学校運営協議会

（1）「確かな学力」の育成に向けて 『学力向上プラン』

重点目標

- ・言語能力の向上を基本に据えた、社会に繋がる楽しくてわかりやすい授業の改善
- ・基礎・基本の定着を図る授業や取組の工夫と家庭学習定着を図る教科指導
- ・授業において「本時のねらい」の明示に始まり、まとめによる深い学びへの発展
- ・特別の教科「道徳」の先行実施にむけた授業改善と評価の研究
- ・総合的な学習の時間の充実と各教科の連携による探究心やプレゼンテーション能力の伸長

具体的な取組

- ・全ての教育活動でキャリア教育の視点を持ち、小中一貫教育による9年間を見通したカリキュラムマネジメントの推進（西院小、西院中がSSH事業指定校）
- ・教職員のカリキュラムマネジメントについて研修
- ・総合的な学習の時間をカリキュラムマネジメントの視点で、将来必要な資質・能力が身につく効果的な内容へ改善
- ・学習に対する姿勢や学習習慣が十分身についていない生徒に向け、家庭学習の充実を考慮した宿題等の課題の工夫や家庭学習点検活動の工夫、基礎基本の定着を核とした学習習慣の定着に取り組む
- ・小学校との連携や共同研究により、言語活動の充実や教科等横断的に学びを統合する力を養う
- ・小中合同研修を充実させ、各データの分析・検証のもと、小中9年間つながりある教科指導を研究
- ・補充を目的とした学習会や土曜学習など効果的に作用し、学習が定着していない生徒を中心に効果を示す取組（振りスタ・未来スタ・土曜学習等）や指導内容の研究
- ・特別の教科「道徳」としての教材研究と前年度の評価研究先行実施校としての実践の反省を生かす更なる質の高い評価の研究

(取組結果を検証する) 各種指標

全国学力・学習状況調査 学習確認プログラムの結果・生徒アンケート・保護者アンケート・生徒アンケート「自分で計画を立てて課題に取り組んでいる」・生徒アンケート「普段からよく読書をしている」・朝読書や毎月の読み聞かせの実態

中間評価

各種指標結果

<全国調査より>

— 概況について —

- 国語A、Bともに全国平均正答率よりそれぞれ2.9、2.8ポイント高い正答率であった。ただ、数学A、Bは、ともに全国平均正答率を下まわった。
- 現3年生は入学時の数学はジョイントプログラム全市比較で正答率4.6ポイントも低く厳しい学力スタートであったが、3年間で若干だが改善が見られる。しかし、まだ全国平均正答率と数学A1.9、B2.9下回っている。
- 国語Aでは、“話すこと・聞くこと”・“書くこと”・“読むこと”・“伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項”で特に良好な結果であった。また、国語Bにおいては、“話すこと・聞くこと”・“読むこと”で良好。“書くこと”・“伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項”の領域で若干、下まわる結果であった。
- 数学Aでは“資料の活用”の領域で良好，“数と式”・“図形”・“関数”的領域で低い傾向、数学Bでは全ての領域で低い傾向であった。“物理的領域”で若干低い傾向であった。
- 理科では、特に主として「活用に関する問題」で好結果であった。領域別では“化学的領域”・“生物的領域”・“地学的領域”で好結果。

<学習確認プログラム・ジョイントプログラムより>

(3年1st)

○入学時より 3 年 1 サントまで総合は若干の上昇。国語・社会・理科では全市平均を上まわり続けて順調な結果が見られる。しかし数学・英語においては、3 年 1 サントにおいても全市平均より下回っている。

(2 年 Pre 1)

○入学時より総合・国語・算数とも全市平均を下回る状態であった。1 年生ベーシックより国語、社会において全市平均を少し上まわり若干の改善。

2 年 Pre 1 では、少しずつ改善傾向ではあるが全市平均を少し下回る結果であった。特に、1 年時より英語が最下位層である。

(1 年 ジョイント)

○国語、数学（算数）とも全市平均を少し上回る結果。ここ数年は、特に小学校の算数が低い結果が入学時より見られたが、改善されている。

○家庭学習を全くしない生徒は、全国と比較して少ない。また、全国調査では 1 日あたりの家庭学習時間が、2 時間以上や 3 時間以上と答えた生徒が 45% と全国平均を大幅に上まわった。

○全国調査の質問事項では、学校以外の読書を全くしないと答えた生徒は、全国と比べて 8.6 ポイントも低い。また、1 時間以上の読書週間が着いていると答えた生徒も全国平均を上まわっている。

○全国調査の質問事項で、探究学習や言語活動・発表などの学習に肯定的な生徒が、全国平均より高い傾向が見られた。

自己評価	分析（成果と課題）
	（成 果）
	<p>○保護者アンケートの「子どもの力を引き出すことを心がけた授業や取組をおこなっているか」の質問事項で、肯定的な回答が 90% を超えている。</p> <p>○生徒につけたい資質・能力の重点を言語能力の向上としてきたが、全国学力調査で国語 A・B とも結果が良く、学習確認プログラムの国語の結果は全学年とも成果が見られる。</p> <p>○毎日の朝読書や学校外での読書習慣に定着が見られる。</p>
	（課 題）
	<p>○2 年生、3 年生の英語、数学の学力向上。</p> <p>○さらなる言語活動の充実や教科等横断的な学びの統合を進める教育。</p>
	分析を踏まえた取組の改善
	<p>○特に英語科、数学科の基礎学力定着へ向けた、さらなる取組や授業改善へ向けた研究。</p> <p>○授業改善を中心に据えた学校評価やカリキュラムマネジメントの推進。</p> <p>○各学年、教科が、学力向上へむけた分析や改善策の検討会議実施。</p>
学校関係者評価	（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標
	<p>○学習確認プログラムの結果・教職員アンケート・保護者アンケート・生徒アンケート</p>
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策
	<p>○支援を必要とする生徒に対して、出来る限りの学習支援や質の高い総合育成支援教育の実施の願い。また、地域、PTA としても協力できることがあれば協力したいという意見があった。</p>

最終評価

自己評価	中間評価時に設定した各種指標結果
	<ul style="list-style-type: none">○学習確認プログラムの英語科、数学科の指標が、改善にむかってた。○授業改善を中心に据えた校内研修を進めたため、教職員の意識が授業改善の意識が高まつた。○各学年、教科が、学力向上へむけた分析や改善策の会議や研修実施により、対話的な授業が増えているように生徒が感じている。
	分析（成果と課題） (成 果) <ul style="list-style-type: none">○2年生の学習確認プログラムで落ち込んでいた指標が、中間評価時より若干ではあるがPre3の指標が改善にむかってた。○保護者アンケートの「子どもは友達の意見を良く聞き、自分の意見をはっきり述べることができていて」の質問事項で、前期より後期の調査結果（8割）が好転している。○生徒アンケートの「私は先生や友達の意見を良く聞いて学習している」の質問事項で、後期の調査結果が9割を超えた。 (課 題) <ul style="list-style-type: none">○1年生、2年生の英語、数学をふくむ総合評価の向上。○2年生の理科の指標落ち込みへの対応。
	分析を踏まえた取組の改善 <ul style="list-style-type: none">○基礎基本の定着にも、さらに授業改善への研究体制強化。○さらなる言語活動の充実や教科等横断的な学びの統合を進める。
重点目標の達成状況、次年度の課題	<ul style="list-style-type: none">・「言語能力の向上を基本に据えた、社会に繋がる楽しくてわかりやすい授業の改善」「総合的な学習の時間の充実と各教科の連携による探究心やプレゼンテーション能力の伸長」に対しては、SSH事業の取組など総合的な学習を中心に横断的な仕組みに改善した。・「基礎・基本の定着を図る授業や取組の工夫と家庭学習定着を図る教科指導」に対しては、研究部を中心としたカリマネの視点で研究を進める事ができた。・「授業において「本時のねらい」の明示に始まり、まとめによる深い学びへの発展」では、外部講師を招いて全教職員が学ぶ機会を設定した。来年度も、学校総体としてさらに深い学びを追求していく。・「特別の教科「道徳」の先行実施にむけた授業改善と評価の研究」では、前年度に続き、通知表に道徳の評価を一年間通して記載することができた。来年度は、評価内容をさらに画一的な表記を減らし、個人個人のポートフォリオから読み取れる、道徳的価値の高まりを評価に生かしていく。・
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 <ul style="list-style-type: none">○学習支援や質の高い総合育成支援教育の実施のため、地域としても、地域の取組で活躍してくれている近隣の大学生やボランティアサークルの活用等で協力できることがあれば協力したいと考えている。

(2) 「豊かな心」の育成に向けて

重点目標

- ・夢、志を大切に自己有用感・自己肯定感を持てるような教育の充実
- ・一人一人を大切にする人権を尊重し自分や他人の「いのち」を大切にする心の育成
- ・規律や決まりを守り楽しい学校生活を創る教育
- ・美しいものや自然への畏敬の念を深め、地域芸能（六斎念佛や春日祭礼）の伝統継承に参画をうながすことで、自然・社会への関与と地域、社会とつながる生徒の育成
- ・集団活動の中における責任や連帯を大切にする姿勢を育て、生徒自身の道徳的価値観の醸成

具体的な取組

生徒の自主企画・自主運営を核とした活動を推進するとともに、見守り大切に育ててもらっている地域と一体となってカリキュラムマネジメントを進める。

(1) CGH（クリーン・グリーン・ハート to ハート）活動の推進

- ・クリーン活動…1年生による校内並びに地域の美化活動から課題解決学習
- ・グリーン活動…2年生による校内緑化活動から命の教育や課題解決学習
- ・ハート to ハート活動…3年生による保育園、幼稚園、小学校、デイケアセンターにおける保育・読み聞かせ等ボランティア活動から社会につながる学習

(2) 地域と一体となった取組への参画並びに小学生など異年齢との協働学習の推進

- ・西院デイケア…総合的な学習の時間で、地域の独居老人を招いて、生徒主体の企画・運営による昼食会、演奏会、生徒会アピールなどによる敬老精神の育成
- ・職場体験学習…地域の資源（商業地による強み）である校区の職場を中心として実践
- ・震災防災の取組…校区の二自治連自主防災や消防団をゲストティーチャーとして連携し、いのちを大切にする防災学習を実践
- ・姉妹校との草の根の交流学習…自国を大切に視野の広い国際感覚や国際協調、多文化理解の精神を育み、地域と共に人権教育として実施
- ・西院ふれあいコンサート…地域芸能や保・幼・小・中・介護施設の方たちが一堂に会しての音楽会の参画による異年齢協働学習（小中合同学校運営協議会・地域生徒指導連絡協議会主催）
- ・西院ふれあいまつり…地域交流の場への準備もふくめた生徒のボランティア活動として参画して、地域社会との協働学習

(3) 道徳教育、人権教育、特別活動の充実

- ・「いのちを見つめ合う、いのちを大切にする」道徳教育の実践
- ・いじめ・不登校について課題意識を持ち、内発的な指摘の目を持つ教職員組織づくり
- ・外国籍の生徒のみならず、日本人の生徒が、姉妹校との交流学習を通して、グローバル社会で生きていく力や感性の育成
- ・体験学習「CGH活動」「職場体験」「デイケア」など縦割学習で、豊かな心の育成
- ・挨拶、感謝の気持ちなど、仲間や地域との関わりやつながりを大切にする教育実践
(教職員、生徒会共同の毎朝の挨拶活動)

(4) 規範意識と集団における協調意識の向上へむけた実践

- ・生徒指導委員会の充実化（SC、総合育成教育主任、学年の組織連携強化）
- ・薬物乱用防止教室、非行防止教室、情報モラル教室等の授業充実とカリキュラムマネジメント

・性教育・男女平等教育・LGBTについての授業充実とカリキュラムマネジメント

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・生徒、保護者アンケート「子どもはすすんで気持ちのよい挨拶をしている」「子どもはお互いの人権を大切にしようとする気持ちや態度が育ってきている」「子どもは、自分には良いところがあると感じている」「子どもは、夢やあこがれ、目標を持っている」
- ・生徒による「自主企画・自主運営」の手法の徹底
- ・C(クリーン), G(グリーン), H(ハート トゥ ハート)活動の取組の充実

中間評価

各種指標結果

<生徒、保護者アンケートより>

- 保護者アンケート「子どもはすすんで気持ちのよい挨拶をしている」に対して、肯定的な回答意見が 81.2%であった。
- 保護者アンケート「子どもはお互いの人権を大切にしようとする気持ちや態度が育ってきている」に対して、肯定的な回答意見が 92.8%であった。また、生徒アンケート「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」に対して、肯定的な回答意見は 97.2%であった。
- 保護者アンケート「子どもは、自分には良いところがあると感じている」に対して、肯定的な回答意見が 83.4%であった。また、生徒アンケート「自分には良いところがあると思う」に対して、肯定的な回答意見は 82.2%であった。
- 保護者アンケート「子どもは、夢やあこがれ、目標を持っている」に対して、肯定的な回答意見は 66.4%であった。また、全国調査「将来の夢や目標を持っていますか」に対して、肯定的な回答意見が 72.9%で全国平均より上まっていた。

<生徒による「自主企画・自主運営」の手法の徹底や教育活動に関する成果に関する生徒アンケート、全国調査より>

- 生徒アンケート「話し合う活動を通じて、考えを深めたり、広げたりする行動が出来ている」に対して、肯定的な回答意見は 84.1%であった。
- 全国調査「地域や社会をよくするために何をするべきかを考えることがある」に対して、肯定的な回答意見が 45.8%で全国平均 38.7%より 7.1%上まっていた。
- 全国調査「生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」に対して、肯定的な回答意見が 84.1%で全国平均 76.3%より 7.8%上まっていた。

自己評価

分析(成果と課題)

(成 果)

- “いじめはいけないことである”や“人の役に立つ人間になりたい”などの人権意識や自己有用感を感じ、志を持つ生徒の割合が増えてきている。
- 自尊感情などで高い意識を持つことができるようになっている。

○生活習慣も睡眠時間確保や計画的な学習時間確保などが、全国平均より好結果となった。

(課 題)

- 携帯・メール使用に関しては使用頻度が高く、新聞などからの情報収集より、インターネ

	<p>ット（スマホなど）から情報を得ていることが多い。</p> <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ○成果が出ていることも増えているので、年度当初に立てた重点目標や具体的な取組が、効果的に機能するように絶えず、短期間でのPDCAサイクルを機能させたい。 <p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「豊かな心」の育成に関する生徒、保護者アンケート ・学校関係者評価からの分析や意見
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ○児童・生徒の家庭における時間の使い方については、保護者とともに学校でも、引き続き指導して欲しいという意見がでた。 ○小中一貫教育として、児童・生徒の心を育てられていると感じている。より一層、学校運営協議会の枠組みとしても、共に協力していきたいという意見があった。
最終評価	<p>中間評価時に設定した各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ○保護者、生徒両方のアンケート「人権を大切にする心や態度が身についている」では、9割の肯定的回答が見られた。 ○「小中連携して、たくさんの取り組みを進めて豊かな心を育ててもらっている」という評価をいただけることができた。
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○以前より小中連携やカリマネの視点で教育内容を立てることができている。 ○生徒の学校生活が、全体的には穏やかな集団となっている。 <p>（課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○今以上に外部人材（地域を含む）の積極的な参加を仕掛けて、社会と繋がった心の育成を図っていきたい。 <p>重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「夢、志を大切に自己有用感・自己肯定感を持てるような教育の充実」や「一人一人を大切にする人権を尊重し自分や他人の「いのち」を大切にする心の育成」では、総合的な学習に位置づけて、各種の取組を改善しながら進める事ができている。 ・「規律や決まりを守り楽しい学校生活を創る教育」では、全市生徒会議や支部生徒会交流会など刺激を受けた生徒会活動を基盤に、学級、学年集団づくりに力を入れることができた。 ・「美しいものや自然への畏敬の念を深め、地域芸能（六斎念佛や春日祭礼）の伝統継承に参画をうながすことで、自然・社会への関与と地域、社会とつながる生徒の育成」では、教育課程内ではない場面もあるが、自然・伝統・文化に触れる活動が、学校が生徒に発信して地域と連携した教育ができている。次年度はカリマネの視点で、どの様な機会が生徒にとって課題解消や成長に繋がるかを絶えず改善していくかなければいけない。

学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生徒の学校生活そして家庭における生活の中に潜む危険を強く感じる。保護者とともに学校でも、引き続き指導して欲しいが、地域でも何かできることがないか考えていきたい。 ○5部会を立ち上げて2年が経った。そろそろ、学校運営協議会として何か具体的な取組を実際にやっていく時期にきてはいるのではないか。
-----------------------------	--

(3) 「健やかな体」の育成に向けて

重点目標	<p>「いのちと人権」を大切にする生徒の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的生活習慣の確立（食育、健康教育など） ・スマートフォン等の課題に対する対策 ・体育や部活動を中心として、全校生徒の体力向上 ・ものごとを継続する姿勢の確立 ・地域と連携した安全教育と防災教育の推進 ・性教育の推進
具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・PTAと連携して、全生徒が規則正しい生活（食育を含む）を送れるような家庭生活の啓発 ・薬物乱用防止の研修、指導の充実 ・自転車安全教室等の取組を活用した交通マナー向上を目的とした安全教育の充実 ・スマホ・ケータイ依存の危険性について啓発及び情報モラル等の教育推進 (携帯教室やPTAの情報モラル教室の実施) ・性教育の授業改善と充実 (助産師会協力による命・性教育実施) ・災害発生時の危機回避や関係機関（区役所等）との連携など、地域で自他のいのちを守り、災害時に役立つ実践力の育成（地域、関係機関と連携した震災・防災の取組） ・部活動を自らの自主性に於いて、結果として全員参加となる部活動ガイダンス充実 ・教職員が京都市ガイドラインを守り、生徒の心と体を健やかに育む体制づくり
(取組結果を検証する) 各種指標	
<ul style="list-style-type: none"> ・基本的生活習慣の確立・携帯・スマートフォンの弊害についての呼びかけ・生徒全員入部制の部活動の充実・生徒アンケート「普段（月～金曜日）1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか」、同様の内容で「テレビやビデオ・DVDを見たり聞いたりしますか」、同様の内容で「テレビゲームや携帯式ゲームをしますか」 	

中間評価

各種指標結果	<p>○PTAや地域との協力により、生徒がおおむね安心を感じ、安全に中学校生活を送ことができている。</p> <p>○生徒への携帯・スマートフォンの弊害についてやスマホを介したトラブル等についての授業を設定した。</p>
--------	--

- 全国調査の「放課後に何をして過ごすことが多いですか」の質問に「テレビ・ビデオ・DVDを見たり、ゲームをしたり、インターネットをしている」との回答は全国平均と同じ割合。また「週末に何をして過ごすことが多いですか」の質問に「テレビ・ビデオ・DVDを見たり、ゲームをしたり、インターネットをしている」との回答は全国平均より少ない。
- 保護者への携帯・スマートフォンの弊害についてやスマホを介したトラブル等についての啓発を目的とした研修を夏季休業前のブロック懇談会にて生徒指導課の主事を招いて実施した。
- 全校生徒に自ら自主的に部活動参加が検討できるように、体力増強や生徒の心と体を健やかに育む意義などについてガイダンスができた。

自己評価

分析（成果と課題）

（成 果）

- 携帯・スマートフォンのトラブル発生を食い止めるることはできなかったが、前年度よりトラブル件数は抑えることができた。
- 全校生徒に部活動参加が、心と体を健やかに育む意義を理解して自らの自主性に於いて、ほぼ全員参加が達成できた。

（課 題）

- 全教職員が、生徒の薬物使用の危険がせまっているというさらなる危機意識を持つこと。
- PTA、地域と連携して、全生徒が規則正しい生活（食育を含む）を送れるような啓発や関わりの取組実践。

分析を踏まえた取組の改善

- 今後もアクティブラーニングの視点を取り入れた携帯・スマートフォンの弊害やスマホを介したトラブル等について考える授業に取り組んでいく。
- 薬物乱用防止については、引き続き生徒への啓発を強化していかなければいけない。

（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標

- ・「健やかな体」の育成に関する生徒、保護者アンケート
- ・学校関係者評価からの分析や意見

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

- 概ね生徒は、安心・安全で健やかに育っている。

最終評価

中間評価時に設定した各種指標結果

- 「基本的生活習慣の定着」についての生徒アンケートでは、肯定的回答が7割弱であるが、同内容の保護者アンケートでは、前期の肯定的回答が6割強であったが、後期の肯定的回答は7割となり、改善が見られた。
- 学校関係者からも「大きな問題も無く、日々の成長を感じさせる西院校区の生徒の姿がる。」という意見をいただいている。

自己評価	分析（成果と課題）
	<p>○地域や校区の保育園・幼稚園と連携した、地域に開かれた教育から社会と繋がる生徒を育てることができた。アンケート結果でも、自己肯定感や夢・志を持っているかについての質問で、生徒の肯定的な意見や地域の肯定的な評価を得ることができた。</p> <p>○人権を大切にする学校教育を進める中、いじめに対する組織的な対応や未然防止に努め、一定の成果が見られた。また、不登校生徒に対する取組も、担任や学年、生徒指導部が主体となり家庭との連携や多岐にわたる支援を行ってきた為、素早い対応で不登校傾向が改善された生徒も多数見られた。</p> <p>●一小一中による生徒関係の固定化と急激な人口増加による課題は顕著である。また、小学校からのトラブルが解消できず、生徒、保護者の感情が中学校以前の状態であることが、解決への指導が困難になっている。また、西院小学校が5年間の校舎改築工事に来年度より入るため、児童の発散できる場が無くなる。</p>
	分析を踏まえた取組の改善
	<p>○課題解消のため、小中連携して、生徒集団の高まりや居場所づくり、生徒の自己指導力の向上を図り、9年間の健やか学びの場づくりを行う。来年度は、小学校と連携して、西院小学校の運動会を西院中学校のグラウンドでおこなう。</p>
学校関係者評価	重点目標の達成状況、次年度の課題
	<p>○「いのちと人権」を大切にする生徒の育成として、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的生活習慣の確立（食育、健康教育など） ・スマートフォン等の課題に対する対策 ・体育や部活動を中心として、全校生徒の体力向上 ・地域と連携した安全教育と防災教育の推進 ・性教育の推進 <p>について達成することができたと感じている。</p> <p>○スポーツテストの運動の能力が低いという結果に対して、さらに体育教科、生徒会活動、部活動など連携して、まず、体を動かす機会の確保を図りたい。</p>

(4) 学校独自の取組

重点目標
<p>中学卒業時の自立・自己実現のための確かな礎を築く（キャリア教育）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・確かな学力を身につけ、生涯にわたって自ら学び続けようとする力を育てる ・「西院の子どもは西院で育てる」のもと、地域、家庭とともに教育 ・教育活動の活性化のために地域人材や地域環境の有効活用
具体的な取組
<p>○保幼小中、地域で、児童・生徒の姿から課題の把握と共有 ⇒ 授業の評価、学校関係者等の学校評価の活用（小中合同学校運営協議会との協働）</p>

<ul style="list-style-type: none"> ○生徒指導や学力向上で、日常的な情報交換と問題意識の共有（小中各部での情報交流） ○9年間の学力実態の分析・考察・共通理解（プレジョイント、ジョイントプログラム、学力定期調査、学力・学習状況調査、学習確認プログラム、進学状況報告） ○確かな手立て ⇒ 言語活動の充実をめざし、同じ目的意識を持つ共同研究 (めあての設定・手立ての工夫・評価活動・学習の振り返り・あらゆる場面で指導しきる)<ul style="list-style-type: none"> ・「コミュニケーション能力」を身につけるために、書く、聞く、話すなど言語活動をどのように学ばすのか共同研究 ・小中一貫教育が、学力向上への効果や成果の共同検証（小中一貫部会、小中合同研修）
<p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中合同授業研修会の実施 ・保・幼・小・中や地域との連携の取組の充実 ・異文化理解、国際理解教育の充実 ・生徒、保護者アンケート「子どもは今住んでいる地域の行事に参加している」

中間評価

<p>各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ○言語活動や探究活動を含めた西院小学校との総合的な学習連携にむけて、小中合同授業研修会として相互授業参観・研究協議が実施できた。 ○カリキュラムマネジメントを全小中教職員研修や生徒指導、総合育成支援教育、学力向上などに分かれた分散研修の夏季小中合同研修会実施。 ○異文化理解、国際理解教育として、韓国の姉妹校“世道中学校”との交流学習実施。 ○全国調査「今住んでいる地域の行事に参加している」に対して、肯定的な回答意見が60.7%で全国平均45.6%より15.1%上まっていた。 ○言語活動の充実を含むアクティブラーニングの視点を大切にした授業改善に向け、教科会の充実や時間確保が図れた。
--

自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <p>(成 果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○9年間でつけるべき力の共有と連携した実践に加え、小・中学校の効果分析を共有する研修が深まってきた。 ○地域や校区の保育園・幼稚園と連携した地域に開かれた教育が、学校運営協議会を中心に展開できた。地域に対する自己有用感を持ち、夢・志を大切にしていることが、生徒のアンケート結果で肯定的な回答の割合が高かった。 ○生徒会活動や集団で取り組む全ての活動で、生徒が自主決定し実践、課題確認、改善につなげる対話を繰り返すことができた。 ○未然防止や組織的な対応により、いじめ事案の減少で一定の成果が見られた。 <p>(課 題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本年度も小学校から持続した対人関係トラブルが数多く見られ、解決へ導くことが困難であった事例が見られた。 ○不登校傾向にある生徒が、各学年で見られる。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p>

	<p>○9年間の学びの連続性を大切にした生徒指導や徹底的な学力向上にむけた取組実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童会と生徒会連携による、さらなる自己指導力の向上を目指す取組 ・小中間のSSH事業の連携 ・小中連携した道徳の授業改善や評価の研究継続 ・小中間の英語科授業で、TTとしての参加などの連携 ・小中連携した朝読書の取組継続 <p>○不登校傾向にある生徒に対する取組として、生徒指導部が主体となり担任・学年と家庭の連携に対する支援を強化。</p>
	<p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「キャリア教育」に関する生徒・保護者アンケート ・小中一貫教育の成果等に関する学校関係者評価

学校
関
係
者
評
価

学校関係者による意見・支援策

- 学校運営協議会と共に、生徒のキャリア教育を推し進めたいという意見があった。
- 西院小中一貫教育を今後も大切にして欲しい。また、学校運営協議会として支援していく。

最終評価

	<p>中間評価時に設定した各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生徒・保護者アンケートとともに、「より良い生き方」に関する肯定的回答回答が7割強である。 ○小中合同の学校運営協議会で、代表理事・部会長反省会では、「現在のまま、小中連携を持続してほしい」と評価を得た。
自己評価	<p>分析 (成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学年により数値の違いはあるが、探究館と連化している事業であるキャリア教育に関するアンケート結果でも年々、より良い生き方への関心が高まっている。 ○地域の高齢者から学ぶ取組や保幼小中高連携の取組など、西院中学校の一小一中や地域の強みを生かした異年齢から学ぶ教育が、キャリア教育に繋がっている。 ●成果が出ている反面、次代へ繋げる校内体制をカリマネの視点で整えて、西院教育の何を大事にして行くのかを確認しながら発展させていきたい。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ○西院独自の素晴らしい伝統的な教育を発展させ、大事な教育場面を持続可能な取組としていかを学校体制で考えていきたい。 ○PDCAサイクルを効かせ、絶えず全教職員でカリマネの視点で学校経営に参加できる研修を強く進めていく。

	<p>重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ○中学卒業時の自立・自己実現のための確かな礎を築くキャリア教育の実現としては、次の2点では達成できた。 <ul style="list-style-type: none"> ・「西院の子どもは西院で育てる」のもと、地域、家庭とともに教育 ・教育活動の活性化のために地域人材や地域環境の有効活用 ○「確かな学力を身につけ、生涯にわたって自ら学び続けようとする力を育てる」では、キャリア教育の基礎となる将来必要とする資質・能力を身につけるためにも、キャリアアプロンニング能力の定着を目指していきたい。
学校 関係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生徒のキャリア発達を目指し、チャレンジ体験等で惜しみなく協力したい。 ○学校運営協議会として、西院小学校も西院中学校もどちらも西院のまちの学校としてこれからも更に支援していきたい。